

船舶事故調査報告書

平成30年7月18日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	平成30年3月27日 11時00分ごろ
発生場所	岩手県洋野町種市漁港北方沖 種市港沖防波堤灯台から真方位339° 920m付近 (概位 北緯40° 24.7′ 東経141° 43.3′)
事故の概要	ミニボート（船名なし）は、帰航中、浸水した。
事故調査の経過	平成30年4月4日、主管調査官（仙台事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	ミニボート（船名なし）、総トン数なし
船舶番号、船舶所有者等	なし、個人所有
乗組員等に関する情報	操縦者、操縦免許 なし
負傷者	なし
損傷	船体外板に擦過傷、船外機に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 4、視界 良好 海象：波向 東、波高 約1.5m、海面水温 約6～9℃
事故の経過	<p>本船は、操縦者が1人で乗り、種市漁港沖で釣りを行っていたところ、風が強まって白波が立ち始めたので、帰航を始めた。</p> <p>本船は、操縦者が浅瀬に接近していることに気付いて浅瀬から離れようとし、沖に向けて東進した際、付近の岩礁で発生した波高約1.5mの磯波を船首方から受け、海水が船内に流入して浸水した。</p> <p>操縦者は、排水する間もなく、船体が沈下し始め、水船となったので、船上に留まることができなくなり、付近の養殖施設に泳ぎ着いた。</p> <p>操縦者は、所持していたスマートフォンが海水に浸かり、通報することができず、養殖施設の上で救助を待っていたところ、付近にいた人に発見され、通報を受けて来援した防災ヘリコプターに吊り上げられて救助された。</p> <p>本船は、本事故発生場所付近の岩場に漂着し、地元の漁業関係者によって引き揚げられた。</p> <p>本船は、2ストロークの船外機を搭載する和船型の一体型FRP船であり、本事故当時、乾舷が約30cmであった。</p> <p>本船は、釣り竿、電動リール、バッテリー、クーラーボックス等を積んでいた。</p> <p>操縦者は、本事故当時、膨脹式救命胴衣を着用していた。</p> <p>操縦者は、半年ほど前に本船を購入し、本船への乗船が10回未満であり、種市漁港付近を航行した経験が約4～5回あった。</p>

	本事故発生場所は、水深が約2～5mである。
分析	本船は、帰航中、操縦者が浅瀬に接近して航行したことから、浅瀬付近の岩礁で発生した波高約1.5mの磯波を船首方から受け、海水が船内に流入して浸水したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、帰航中、操縦者が浅瀬に接近して航行したため、浅瀬付近の岩礁で発生した波高約1.5mの磯波を船首方から受け、海水が船内に流入して浸水したものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニボートは、乾舷が小さく、低い波でも浸水しやすいので、岩礁や浅瀬付近などの磯波が発生しやすい海域に近づかないこと。 ・緊急時の連絡手段を確保するため、防水型の携帯電話又は防水パックに入れた携帯電話を所持しておくことが望ましい。